



おじま まさみ
小島 正美 さん(柳)

早速雑がみを分別したところ
可燃物のゴミの量が半分にな
り驚きました。

地球温暖化が叫ばれる背景から、
ごみ焼却による環境への影響や、リ
サイクルが定着していない状況に危
機感を感じ、地球温暖化防止など環
境問題に取り組もうと平成20年に発
足した同会。河川の水質調査や、
ゴーヤの苗を配るなどさまざまな活
動をしてきたそうです。そんな中、

広がる分別の輪

みなさんはごみの分別に自信はあ
りますか。
今回は、ごみの分別から環境問題
に取り組んでいる「養蚕地区地球環
境を考える会（養蚕エコの会）」会
長の藤田茂光さん、顧問の稲川誠司
さんにお話を伺いました。

ごみの分別が助ける 地球と市の明るい未来



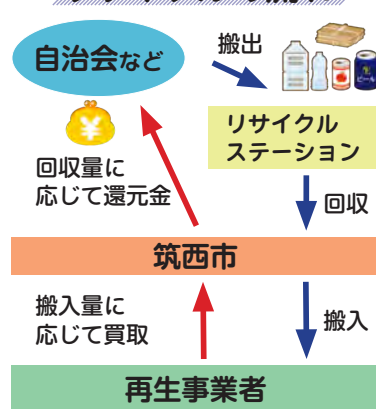
ごみカレンダーは
こちら



分別について話し合う
(左) 藤田さん、(右) 稲川さん

不燃ごみの分別回収で、ごみの減量
と大幅な経費削減に成功した桜川市
の事例を知り、平成30年に養蚕地区
でも試すことにしました。
地区住民との話し合いを経て、
120箇所ある集積所のうち、賛同
の得られた半数の集積所を可燃ごみ
専用とし、リサイクル集積所で資源
物だけでなく不燃ごみも回収する方
法へ変更したそうです。「この方法
で不燃ごみとされていた資源物が分
別回収しやすくなりました。一方で
最初は、いつもの場所に不燃ごみを
出せなくなったなど苦情もありまし
た。そのような時は個別に訪問し、
理解を求めました」と藤田さんは当
時の苦労を話してくれました。
また、集積所ごとのごみの量の変

リサイクルの流れ



化を住民へ知らせることで地域の人
の理解も徐々に進み、令和5年度に
は養蚕地区へのリサイクル還元金が
年間150万円を超えたそうです。
そこで「昨年から地域の人に還元し
ようと感謝祭を開いています。飲食
だけでなく、太陽光で卵焼きを作っ
たり、ごみ分別の方法を伝えるなど
の機会としています」と嬉しそうに
教えてくれました。

経費削減の仕組み

不燃ごみに缶などの資源物が多く
混ざっていると、ごみ処理施設で再
分別が必要となり多額の費用がかか
るそうです。そこで養蚕地区ではコ
ミュニティセンターや10の自治会で
「いつでもリサイクル」を実施。リ
サイクルに出しやすくなったことで
混入割合が下がっているそうです。
稲川さんは「可燃ごみにしてしま
うことが多いお菓子の箱や包装紙な
どの雑がみ、古着なども資源物とし



【問】養蚕地区地球環境を考える会
事務局 大山
☎ 25・1452

講演の依頼などについて

二人の言葉に私も行動を起こさな
いといけないなと強く思いました。
【問】養蚕地区地球環境を考える会
事務局 大山
☎ 25・1452

活動の広がり

同会では要請があれば、市内外へ
出向き講演を行い、活動を広めてい
るそうです。「自分たちは分別が生
活の一部となっていますが、市全体
のごみが年々減少しているのは活動
の効果かなと感じています。今後は
プラごみの回収などにも取り組みた
いです。私たち一人ひとりができる
ことをやるのが大切です」と話す
二人の言葉に私も行動を起こさな
いといけないなと強く思いました。